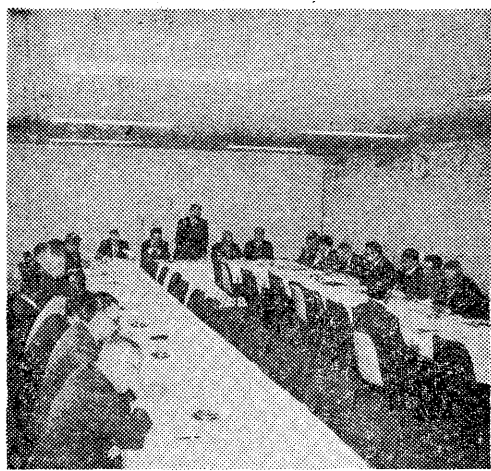


全建連新聞

社団法人 全国中小建築工業団体連合会
東京都港区赤坂2丁目2番19号
アドレスビル内
電話03 686 3381
購読料送料共 半年200円1年400円

規模/技術/品質を誇る
建設省防火建築材料認定品
三菱石膏ボード
販売元 三菱商事株式会社
製造元 日東石膏株式会社
日本石膏株式会社

住宅施工士(仮称)の 実現をめざす



挨拶をする今井会長(中央)

51年度

事業計画・予算案を検討

第七回拡大理事会開く

三月五日午後、東京・永田町の自由民主会館で第七回拡大理事会が開かれた。今回の理事会が昭和50年度締めくくりの会議であるため、理事の殆どが顔をそろえ、理事を送り出してない九組台からは代表者七名が出席した。また、理事会にまたち本部事務局において今井会長をはじめ四役会がもたれた理事提出議案の検討が加えられた。

- (1) 新団体加入承認の件
伊新堀建築組合連合会(会長 川宮佐治会長)の加入が満場一致で承認された。
- (2) 賛助会加入承認の件
住宅協会の販売を認める日仲産業株式会社の加入が承認された。
- (3) 住宅施工士(仮称)制度へのとりかたについて
建設法の技術検定制度的中に建築士を追加させるよう働きかけることになった。
- (4) 昭和51年度事業計画要綱案について
①組織の強化の経営の近代化対策
②事務の適正化の確保
③建設振興基金の行なう事業にたいして、本会としても必要の事業を行なうよう定款の一部を改正することにした。
- (5) 昭和三十二年財政対策について
財政を確保し、事業活動を積極的に推進するため会費の引き上げ案を決議した。
- (6) 定款の一部改正について
建設振興基金の行なう事業にたいして、本会としても必要の事業を行なうよう定款の一部を改正することにした。
- (7) 会長表彰の実施について
第三回総会で功績、技能、勤続表彰を行うこととした。
- (8) 第三回定期総会開催について
五月十九日、京都において第三回定期総会を開くことを決議した。

経営技能者等の対策を積極的推進

木造住宅委の報告をもとに

建設省は、従来より木造等住宅供給業務の合理化を積極的に進めているが、その一環として「木造等住宅業務合理化促進事業計画調査委員会」を設置した。

同委員会は、過去五回にわたって調査、審議を行ってきたが、三月二十九日の委員会で調査報告書をまとめた。

五月十九日、京都において第三回定期総会を開くことを決議した。今回の理事会で議論が集中したのは、住宅施工士(仮称)制度の創設について、「単なる称号だけの制度では上層を重ねるだけ」という意見もあったが、技能者に魅力をもたせるには、なんらかの格付け制度が必要だと格付けにつながる有効な制度の創設について取り組むことになった。

振興基金に拠出完了

昨年七月の第五回拡大理事会で決議された財団法人建設振興基金への拠出が、この程無事完了した。

また、全建連では、同基金の事業導入のための第七回拡大理事会に

特別融資制度を活用

申し込み企業相づく

建設省は、不況の長期化による経営の不安定な中小建設業者に対して、資金の特別融資を行うことになったが、全建連では、三月十九日付けで、この申し込み要領を所屬組に連絡し、会員に広く活用してもらおうと努めてきた。

認定申請期間が三月二十二日から四月八日までとなっているので、項、なす五つの項目に分類して、案している。

この特別融資制度は中小企業銀行が格別不安定な中小企業を救済するための民間金融機関(都市銀行、地方銀行、信託銀行)に対し、総額四〇〇億円の救済特別融資を実施するよう要請したものである。

また、同委員会には全建連から中川事務理事が参加した。この建設行政に期待

第二回総会告示

社団法人 全国中小建築工業団体連合会
会長 今井喜三

全建連第三回定期総会を次により開催する。

- 日時 昭和51年5月19日 午後一時
- 会場 京都・五条大橋畔「鶴清」
- 議題
①昭和50年度事業報告に関する件
②昭和50年度歳入歳出決算報告に関する件
③昭和50年度監査報告に関する件
④昭和51年度事業計画に関する件
⑤昭和51年度歳入歳出予算案に関する件
⑥定款の一部改正に関する件
⑦役員補充に関する件

おいて定款の一部改正決議、承認している。(本紙理事報告参照)

最近転居したため、通勤の足が私鉄から国鉄・総武線にかわった。総武線は、通勤のヒックになると、降り返り電車は皆「整列乗車」というものを行なっている。これは、降車客が出たあと一旦ドアを開き、乗車客がスタート位置に揃ってから開ける方法なのである。なる程この方法をとりと乗客が安全に降車できるの早くから並んでいる乗車客の着席率がどのドアも平均的になる等の利点がある。しかし初めてこの方法に接した私は「まるで競馬だ」とどうも笑したものだ。慣れ、とは恐ろしいもので、一ヶ月も経たない内にこの方法を前記のように習得するようになった。慣れ、と言えよ、四月は新入生・新入社員が生まれる月で、新転居には「慣れ、てない人達と言えよ。その彼らもその場に「慣れ、る」には一ヶ月もいるまい。しかし、慣れ、もドツブリとつかると、進歩が失われ、危険性を帯びている。一般にエンジニアは、自分の経験(慣れ)を大事にしている。でも、彼らの場合は、その経験に決して甘んじようとはしていない。常に研究心を忘れず、自分の仕事を経験と研究成果をコントロールしながら進めている。また、それが彼らの「慣れ、である」当業界においては、経営・技術両面に苦しみ、慣れ、がみられる。一例をあげるなら、低価格への挑戦、工法の改良、新材料の開発などである。これを昔ながらの「慣れ、で受け取るか、はたまたエンジニア的慣れ、で受け取るかは、日本経済の基幹産業の一環を担う中小建築業者の判断である。たゞ、「立ち遅れた床屋の業界」というイメージを一掃するには、慣れ、ドツブリとつかってはいけなことは確かである。

第6回 全日本木工機械展

(併催・第9回輸入木工機械新製品展示会)

会期 / 昭和51年4月24日(土)→29日(木) AM 9:00~PM 5:00

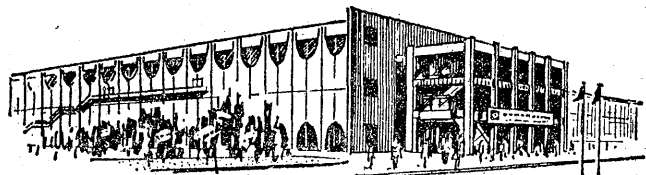
会場 / 東京・晴海 東京国際貿易センター(西館・新館)

■ご来場をお待ち申し上げます(東京駅前丸ビル横から無料バスがあなたを会場へご案内します)



★入場無料★

- 主催 関東木工機械協同組合
- 後援 東京通商産業局・林業試験場・東京都・東京商工会議所
東京都中小企業団体中央会・全国木工機械工業会
全日本木工機械商業組合
- 協賛 日本輸入木工機械協会・関連産業団体
日刊工業新聞社他



全日本木工機械展事務局

東京都江東区木場5丁目3の8(内藤ビル) 電話(643)0531

